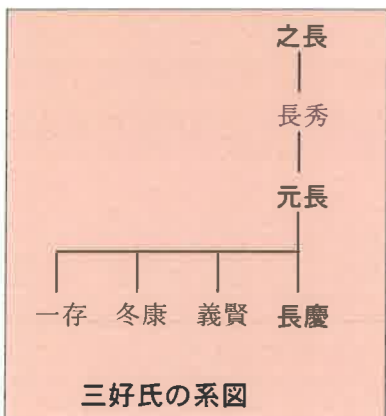


【4】阿波から都へ ～三好氏の時代～

阿波出身の三好氏はなぜ京都に進出したのだろうか、また、それは阿波国にどのような影響を与えたのだろうか、説明しよう。



三好長慶画像
(重要文化財・堺市南宗寺所蔵)



三好之長画像
(県指定文化財・藍住町見性寺所蔵)

都を目指す戦国大名三好氏

三好氏は、鎌倉時代の阿波守護小笠原氏の子孫が三好郡内に住み、地名を名字とした氏族で、室町時代に守護細川氏の家臣となり、しだいに美馬・三好地方で勢力を伸ばしました。

管領家の細川政元が、阿波守護細川家から澄元を養子として迎えた1506(永正3)年、三好之長が澄元の後見人として上洛し、管領家に仕えたことが三好氏の中央政界進出の大きなきっかけとなりました。

之長の孫元長は、港湾都市として栄えた堺(大阪府堺市)を拠点として活動し、1527(大永7)年に足利義維を将軍候補に擁立するなど、一時期、幕府政治を左右する程の力を持ちました。しかし、その元長が、本願寺の一向一揆に攻められて自殺すると、その子長慶が三好氏を継ぎました。長慶は次第に権勢を振るうようになり、ついには幕府に代わって近畿地方を支配するようになりました。

これが戦国大名三好氏による政権で、長慶は飯盛城(大阪府大東市)を拠点として、義賢(阿波)・冬康(淡路)・一存(讃岐)の兄弟とともに、最盛期には阿波も含めた8か国にわたる領地を支配しました。

しかし、1564(永禄7)年に長慶が飯盛城で死去すると、三好氏の勢力は衰え、かわって織田信長の勢力が近畿地方に進出することになりました。



港の名前	現在の所在地	積み荷
土佐泊	鳴門市鳴門町土佐泊	米・大麦・小麦・藍
撫養	鳴門市撫養町	小麦・藍
別宮	徳島市川内町上別宮	胡麻
惣寺院	不明	藍
平島	阿南市那賀川町中島	榎・材木・アラメ
橋	阿南市橋町橋	榎
牟岐	海部郡牟岐町牟岐	榎
海部	海部郡海陽町海部	榎
穴喰	海部郡海陽町穴喰	榎

阿波の港からの積み出しされた産物

中世阿波の港と産物

三好氏は、近畿地方での合戦のために、阿波国から大勢の兵士や物資を輸送しました。そのためには多数の船舶が必要でした。

三好氏は、淡路の由良(兵庫県洲本市由良町)を本拠地とする安宅水軍を配下に置き、船舶や乗組員を動員しました。この安宅の水軍は、平時には商品を船で運ぶ水運業者として活動しました。

室町から戦国時代の阿波でも、吉野川などの大河川や沿岸部に多くの港津や市が整備され、日用品などの物資が商品として運ばれたり、売られたりしました。

室町時代から吉野川流域で生産された藍が京都などに運ばれて阿波を治めていた三好氏にとっても、貴重な収入源になっていたと考えられています。

戦国城下町勝瑞の発展

1553(天文22)年、三好長慶の弟義賢が守護細川持隆を滅ぼし、阿波を統治することになりました。義賢も細川氏と同様に勝瑞(板野郡藍住町)に居城を築いて、拠点としました。当時の勝瑞は、有力な武士の館や寺院が建ち並び、商人などが訪れて茶会が催されるなど、阿波国の中心地として繁栄しました。

三好氏の館跡である国史跡「勝瑞城館跡」からは、全国最大級の庭園跡や珍しい外国産の茶道具など、当時の三好氏をはじめとする武士の暮らしぶりや勝瑞の町の様子を伝える多くの遺構・遺物が見つかっています。

「兵庫北関入船納帳」とは？

瀬戸内海沿いの港から出港した船舶が兵庫津に入港した時の記録。1445(文安2)年1年間のものが伝えています。

「中世阿波の特産品」

●木材
室町時代の阿波国は西国一の木材移出国で、勝浦川・那賀川・海部川上流域が一大産地となっていました。

●藍
室町時代から吉野川流域で生産された藍が京都などに運ばれて染料として利用されました。

●塩
「阿波塩」として、近畿地方に運ばれました。鳴門などで生産されたと考えられます。



茶碗



花器